

## 「台湾政治大学派遣参加報告書」

京都大学文学研究科修士2年 市來昌冬

以下では、今回の派遣プログラムについて（１）プログラム内容（２）学習成果（３）海外での経験（４）進路への影響、という四つの観点から簡潔に報告する。

## （１）プログラム内容

今回のプログラムでは4月29日、30日に台湾で開催された国際学会「Quadrangle Graduate Conference on Asian Philosophy」に参加した。私は「The Difference between Dichotomy and Dualism」というタイトルで、二分法（dichotomy）と二元論（dualism）の区別について、フッサールを中心として分析したものを発表した。

## （２）学習成果

自分の発表に対する質問やコメントによって、自分の研究についてより深い理解をすることができた。また、これらのコメントは今後の私の研究に直接活かすことができる。それだけでなく、自分の研究と近い発表や、自分の興味のある分野の発表をいくつも聴くことができたため、知識を涵養したり、考え方に刺激を受けたりすることができた。

さらには、発表はもちろん学会後の懇親会も含めて、今回ほとんどの会話が英語で行われたのだが、この点は、英語の学習という観点からは非常に有意義なものであった。なお私は昨年度にKUASUの派遣プログラムでシンガポールに派遣され学会発表を行っていたのだが、英語力の向上を感じた。

## （３）海外での経験

参加者の先生や学生と、学会発表や質疑応答だけでなく懇親会でも交流をし、哲学に関する会話だけでなく日常的話題も楽しむことができた。その中には、それぞれの国の文化や習慣に関する会話もあり、国際的な親睦だけでなく国際理解をも深めることができた。

## （４）進路への影響

私は現在博士課程への進学を希望している。前回の派遣と同じく、今回の派遣でも、英語で議論を行うことの重要性和自分の英語力の不十分さを痛感したのではあるが、同時に、前回と比べての英語力の向上も感じることができた。この調子で英語力を涵養していき、研究者として成長していきたいと感じた。